

公開講座の開設主旨・目的等

概要:2010年代以降、世界の多くの場所で移民難民問題がクローズアップされてきました。それはグローバル化する現代世界が直面した新たな試練であり、しばしば「危機」として語られます。しかし、移民難民の受け入れと共生は、私たちの社会が今後、新しく柔軟に変化し、発展していくうえでのチャンスでもあるかもしれません。今回の公開講座では、そうした可能性について考えてみたいと思います。

【第一講義】

「アラブの春」の一連の政治変動を受けて、2015年をピークに著しい数の移民難民がEU、とくに地中海の玄関口に当たるイタリア、ギリシャに押し寄せた。EUはこれに対処するための緊急措置として、加盟国全体で分担して受け入れ対応を行う案を示したが、ハンガリーやポーランドなど東欧諸国の反発で十分に実施できていない。EUは危機を乗り越えるための連帯の必要性を繰り返し強調し、EUとしての結束強化を目指している。振り返れば、過去、EUは、様々な危機を経験し、その度に危機克服の過程でむしろ統合の深化を進めるという、危機におけるレジリエンス(回復力)を示してきたが、移民難民危機においてはいかなるレジリエンスが発揮されるのだろうか。

【第二講義】

近年、日本の人口の2%超が移民だと言われる。これは、10%から15%程度のEU各国やアメリカなど、欧米の経済大国と比べてかなりの低率である。しかし、人数で見ると、日本にはすでに250万人の移民が暮らし、コロナ禍前は、OECD加盟国の中で4番目に多い年間50万人が入国していた。日本が「移民大国」とも呼ばれるゆえんである。日本政府は、現在まで何度も「移民政策はとらない」と明言し、各国際機関が推し進める社会統合を無視しているが、日本に住む外国人は私たちの隣人であり、同僚であり、友人であり、恋人であるかもしれない。子どもの同級生の父母かもしれない。このような身近な現実から、外国人が暮らしやすい社会の将来性を展望したい。

講義日程・題目及び講師

| 回 | 講義日 | 時間 | 講義題目 | 講師 |
|---|-------|-------------|-------------------------------------|------|
| 1 | 10月2日 | 13:20～14:50 | EUにおける移民難民問題～危機とレジリエンス | 坂井一成 |
| 2 | | 15:10～16:40 | 日本における移民難民問題～「外国人」が暮らしやすい社会のどこが良いのか | 青山薫 |

連絡先

〒657-8501
神戸市灘区鶴甲1-2-1
神戸大学国際人間科学部鶴甲第一キャンパス事務課総務係
TEL:078-803-7515
FAX:078-803-7509